

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年9月6日
タイトル	学校に「くわい」を植えたよ！2019
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年7月16日（火）福山市立川口小学校5年生109名が「くわい」を植える農業体験をしたので取材しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

川口小学校の校庭にあるミニ田んぼで1時間目に植付けを始めました。今日植える「くわい」は、芽が伸びて矢じりの形の葉が出ています。強い日差しにも負けず、5年生は元気一杯です。まず最初に先生が実際にくわいを植え、片方の手でしっかりと穴を掘り、そこへくわいを根が隠れるまで入れてすばやく周りの土を被せて押さえることを伝授されました。その後10秒数えても葉がピンとなっていればOKです。

子ども達は班に分かれて4、5人ずつくわいの苗を持ってミニ田んぼへ行きます。ミニ田んぼに入るのに、なかなか一歩ができません。土の感触に思わず「うわあ」と声があがります。「気持ち悪い」と言う子どももいましたが、顔は笑顔になっていました。

みんな真剣な表情で先生に伝授されたことを思い出しながら植えていました。植えられた苗は葉がピンとなり浮いている苗は一つもありません。「みんな上手だね。」と言うと、はにかんだ笑顔になりました。



「土がヌルヌルして最初は気持ち悪かったけど、段々気持ちよくなったよ。」「僕達は一人1回しか植えないけど農家の人はいっぱい植えるから腰や膝が痛くなりそう。」「収穫の時は寒くて冷たいんじゃないかな。」「いっぱい出来て食べるのが楽しみ。」などと笑顔で話してくれました。

秋には出前授業を計画しています。くわいの成長とあわせて子ども達の成長が楽しみです。水土里ネット福山はこうした取り組みに協力し子ども達に農業を通じて「ふるさと」の素晴らしさを伝えられるよう21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。